

大阪市立大正西中学校 いじめ対応フロー図

教職員研修について＝年に2回校内研修を実施する。

(スクールロイヤー、SC等を講師とした校内研修を1回以上開催する。

教育委員会事務局指導部または教育センターが開催する研修の伝達研修を1回)

早期発見のために＝・日々の観察 ・いじめアンケートの実施(学期に1回以上＝年に3回以上)

- ・教育相談の実施(学期に1回以上＝年に3回以上) ・SCによるカウンセリング
- ・家庭や地域との連携 ・学校以外の相談窓口の周知

いじめの可能性に気付いたとき

全教職員 ・いじめと疑われる行為を発見した ・児童生徒から相談や訴えがあった ・外部から通報があった
・保護者から相談や訴えがあった ・いじめアンケートに記載があった 等

校長・副校長・教頭 ・いじめ防止対策委員会の開催

【協議内容】初期対応の検討

- ・把握できている情報の共有
- ・被害児童生徒の安全確保、心のケア、学習支援の方法
→ 初期段階よりSCによる心のケア

被害児童生徒

加害児童生徒

その他の児童生徒

いじめ防止対策委員会議

校長(委員長)・教頭・首席・生徒指導主事・
教務主任・学年主任(必要に応じて養護教諭、
学級担任、生活指導部長、またSC,SSWの派遣
を要請)

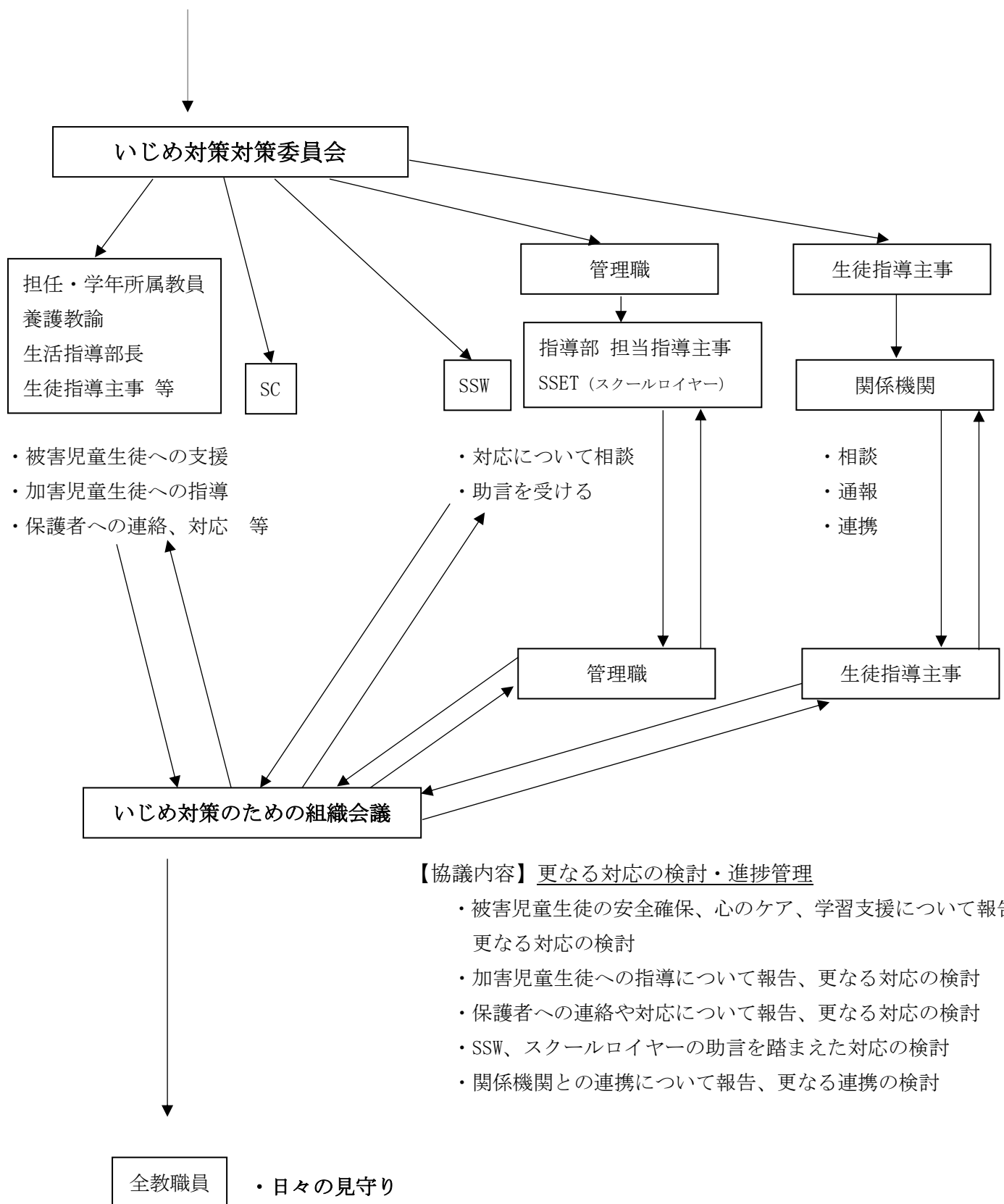
- ・聞き取り方法(どの教職員が、どこで、どのように聞き取るか?聞き取る内容は?)

担任・学年所属教員・生活指導部長・生徒指導主事等 ・児童生徒からの聞き取り等

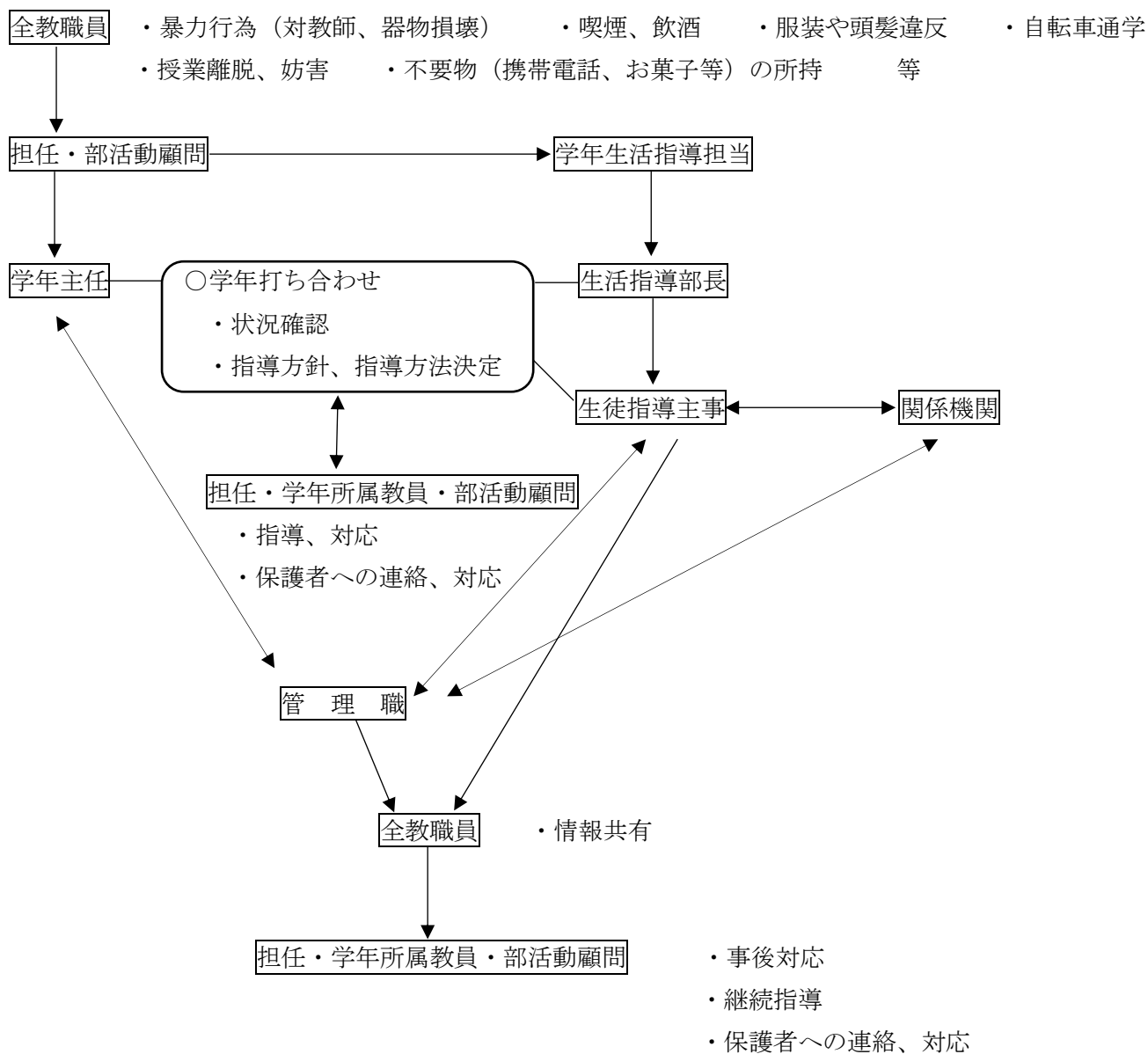
【協議内容】指導方針・指導方法の決定

- ・聞き取った情報の共有
- ・更なる事実確認の必要性の有無
- ・被害児童生徒への具体的な支援の方法(どの教職員が、どのような支援を、
どのように行うか?)
- ・加害児童生徒への具体的な指導の方法(どの教職員が、どのような指導を、
どのように行うか?)
- ・保護者への連絡について(どの教職員が、どのような方法で行うか?説明
する内容は?)
- ・関係機関との連携について(連携の必要があるか?
連携の必要がある場合、どの関係機関と、どのように連携するか?)
- ・その他の児童生徒への働きかけの方法(どの教職員が、どのように行うか?)

いじめ対策対策委員会



いじめ以外の問題行動発生時の対応



※問題行動に対する指導や対応をしていく中でいじめの可能性に気付いた際は、直ちに上記の「いじめの可能性に気付いたとき」の対応に切り替える。